担当:岩佐信道(90分)

道徳教育の意義と本質

◆ 講習の目標

道徳教育の本質に関わる問題の考察を通して、小・中学校においては「道徳の時間」を要(かなめ)とする学校の道徳教育について、教師の理解と意欲を高めることを目指します。

また、児童生徒の実態に応じ、適切な機会をとらえて道徳教育を展開する意欲と自信をもつことができることを目標とします。

科目区分	選択	受講定員	40 人
履修認定対象職種	教諭、養護教諭	主な受講対象	小・中・高教員、養護教員
受講料	6,000円	履修認定時間数	6 時間
開講日	8月5日(月)、8月8日(木)		
開講場所	校舎あすなろ 2508 教室		
担当講師名	岩佐信道、齋藤之誉		
時間割	9:00~10:30 道徳教 10:45~12:15 道徳教 8月8日(木) 8:20~8:50 受付 9:00~10:30 道徳教 10:45~12:30 すべて	(「かえで」 1 階 学 対育の現状の確認とな 対育の意義と本質 対育を充実させるたる で可道徳教育を結び の重要な役割	今後の課題 岩佐信道/齋藤之誉 岩佐信道/齋藤之誉 めに 岩佐信道/齋藤之誉
試験方法	筆記試験(2日目の講義の終りに修了認定試験を実施する)		
評価基準	試験の判定により合否を決定する。100 点満点で評価、60 点以上を合格		
	とする。		
認定番号	平 25-30135-55660 号		

◆ 各講義の内容

(1) 道徳教育の現状の確認と今後の課題

○授業の主な形式 (講義、話し合い、共同作業、発表)

○ねらい

小中学校においては「道徳の時間」特設 50 年以上を経た道徳教育の現状について、受講者同士の経験や観察をもとに理解を深め、今後の道徳教育の課題と方向を探る。

○主な内容

- -1. 講師の導入に続き、道徳教育の実情に関する質問用紙に記入する
- -2. 学校種別に 5,6 人のグループに別れ、質問用紙への記入内容をもとづいて、自分の学校における道徳教育の現状 (小・中の場合、特に「道徳の時間」の現状) について報告し、今後の課題を話し合い、グループとしての考えをまとめる。
- -3. 現状と今後の課題と方向に関する話し合いの結果をグループごとに発表する

担当:岩佐信道(90分)

(2) 道徳教育の意義と本質

○授業の主な形式 (講義、話し合い)

○ねらい

「学習指導要領」およびその解説の記述を参考にしながら、「道徳性を養う」とはどういうことかを考える。そして、それはあらゆる教育活動の中で取り組まれるものであるが、そこでは教師の道徳性についての理解が重要であることを理解する。

○主な内容

- -1. 「その基盤としての道徳性を養うこと」とはどういうことかを考える
- -2. 道徳性の発達について理解を深めるとともに、それはさまざまなつながりが豊かになっていくことであることを理解する
- -3. 具体的な事例をとおして、道徳性を育むことは可能であり、かつ極めて重要であることを理解する

(3) 道徳教育(特に「道徳の時間」)を充実させるために 担当:岩佐信道(90分)

- ○授業の主な形式 (発表、講義)
- ○ねらい

児童生徒が楽しく参加でき、大切なことを学んだと感じられるような道徳教育、特に「道徳の時間」の進め方の工夫、資料や教材の扱い方について理解を深める。

○主な内容

- -1. 受講者の心に残る「道徳の時間」の指導(よかった例や失敗した例)
- -2. すべての内容項目の根底にある「いのちのつながり」
- -3. 「道徳の時間」を生き生きとしたものにする資料や教材とその扱い方

(4) すべての道徳教育を結びつける教師の重要な役割 担当:岩佐信道(90分)

- ○授業の主な形式 (発表、講義)
- ○ねらい

学校におけるすべての道徳教育を生き生きとしたものとして統合するのは、教師であり、その道徳教育に対する考え方であることを理解する。

○主な内容

- -1. 学校におけるさまざまな道徳教育的契機に関する体験の発表
- -2. 児童生徒の道徳性を育むことは教師の最高の仕事
- -3. 教えることは学ぶことである(教師こそ学ぶ必要がある)

講習の最後に試験を行います。これは、講習中に扱った事柄についての基本的な理解と、 受講者の今後の道徳教育に対する基本的な姿勢を確認する記述式の試験です。

評価は、グループ活動や話し合いへの参加、提出物、試験等を総合的に判断します。 上記の内容は、参加者の関心や状況に応じて、変更の可能性があります。

◆ 講師のプロフィール

岩佐 信道	麗澤大学 外国語学部 教授	専門分野:道徳性の発達、教育心理学
齋藤 之誉	麗澤大学 経済学部 准教授	専門分野:教育学